



課 題 名	法人化を目指す経営体（集落営農組織）の育成	普及センター名	壱岐農業改良普及センター
活動対象	壱岐市平人集落	実施期間	H16～H17
<p><b>【対象の概要】</b> 耕作地は水田と畑作地がほぼ半々であり、水田では裏作に麦・大豆が、畑地では葉たばこを中心に施設野菜等が栽培されている。 水田営農の効率的営農を図るため、大区画圃場で生産組織による営農に取り組んでおり、大型機械による省力栽培を行っている。</p> <p><b>【課題設定の背景】</b> ①集落の現況、問題点が整理されておらず将来像が未整理である。 ②生産組合の組合の高齢化が進んでいるが、オペレーター等集落担い手の確保育成ができていない。 ③作業班組織による営農が行われているが、現状がこのまま継続できるかどうか不安を抱いている。 ④水稻・麦・大豆等の土地利用型作物の収量、品質が安定していない。</p> <p><b>【活動目標】</b> ①集落ビジョンの策定並びにその実践 ②オペレーターの確保・育成 ③組織改善支援 ④土地利用型作物安定生産技術の確立</p> <p><b>【活動経過】</b> 1. 総合指導チームの組織化および集落リーダーの選出 平成16年7月 本事業を進めるに当たり農協支所、農協営農指導員、壱岐市支所、壱岐市農業委員会各関係機関でなる総合指導チームを組織した。 一方平行して集落の核となる集落リーダーを郷ノ浦支所、農協志原支所等関係機関にアドバイスを心得て10名を選出し、本事業の集落リーダーとして依頼した。以後1名増えて11名の集落リーダーと総合指導チームに普及センターのプロジェクトチーム員を加えた総勢24名で本事業の推進にあたる体制が整った。</p> <p>2. 集落営農意向調査の実施 平成16年8月 集落の現況、問題点を整理するため集落内全戸に対するアンケート調査を行った。48戸中回答で得た37戸分を集約し、現時点での問題点、集落の課題等が明確になった。</p> <p>3. 先進地事例調査の実施 平成16年11月 集落の課題解決作を見いだす糸口として、先進地である山口県岩国市「南河内むらづくり熟」と山口県豊田町「豊田ホテルの里ミュージアム」を集落リーダー10名で訪れ研修を実施した。その結果、集落ビジョンへの提言が絞られた。</p> <p>4. 集落ビジョンの策定 平成17年3月 事例調査以降、リーダー会を重ね「平人集落ビジョン」を策定し、3月の集落総会の折集落全戸の了承を得た。</p> <p>5. 集落ビジョンの実践 平成17年3月～平成18年3月 策定された集落ビジョンに沿って、プロジェクト班による実践に移した。</p> <p>6. 生産性の向上 平成16年4月～平成18年3月 期間を通じて水稻・麦・大豆について生産性の向上を図った。</p> <p>7. 法人経営の推進 平成16年4月～平成18年3月 作業班から法人組織へ移行させ、集落の機能の維持を図った。</p>			
 <p style="text-align: right;">先進地事例調査（岩国）</p>			
 <p style="text-align: right;">集落総会 ビジョン策定</p>			

## 【普及活動の成果】

## 1. 集落ビジョンの実践

## 1) 水田営農の活性化

「後世に残そう優良農地」を合い言葉に取り組んだ結果、平成18年3月、壱岐市に特定農業団体に申請。

オペレーターの後継者の掘り起こしが困難であったが、集落在住40代までの若手会を結成し、世帯主等との交流が図られ今後につなげることができた。

## 2) 新規園芸品目の導入

「直売所向け野菜・花づくり」

夏ネギ、スイカ等5品目が、地域での新規園芸品目として栽培に取り組まれた。生産物は地元の直売所で販売され好評を博した。



栽培講習会



栽培状況

## 3) 遊休地・休耕田の荒れ地対策

当集落でも、荒れ地が目立ちだしたため、「日本型集約放牧」を推進したが、候補地が放牧の規模に適合せず、椿、銀杏などの植栽もかなわなかった。しかしゆずの導入にあっては、タイミングの問題で当地では実現しなかったが、壱岐島内で新たに栽培が始まるきっかけとなり、波及効果は充分図る事ができた。

## 4) ホタルの川の維持管理

集落の中心を流れる町谷川の流域はホタルの発生で有名であったが、集落でも共同での清掃・除草作業が計画的に行われるようになり、シンボリックな看板もでき、環境保全への意識が高まった。



## 【対象の声】

新規野菜品目の導入についてはスイカ、夏ネギ等で成果を上げ無人販売に「定期的に販売できる量の確保もできたと好評である。

特定農業団体の合意から申請書の作成等、極力協力体制をとり、年度内の申請まで持って行けた。初めての経験という事もあり普及センターの協力に対して感謝された。

## 【今後の課題】

新規の園芸品目の振興は開始したばかりなので、引き続き生産技術の指導が必要。特定農業団体は、特定農業法人への誘導を図る。

## 【成果の活用及び普及活動上の留意点】

事業の成否はリーダーの働きにかかっており、集落リーダー選出は慎重を期する。若手会を有効に活用していく。